

町田市総合戦略協議会 第二回協議会議事録

日時：2015年7月28日（火曜日）13:30～15:00

場所：町田市役所 会議室2-1

委員（敬称略）：市川宏雄、澤井宏行、高橋倫正、井上博行、鍵溝慶一、平野雄治、清原理、  
福原信広、山田剛康、伊藤亨、室井孝仁

事務局：市川政策経営部長、中村次長兼企画政策課長、石坂政策研究担当課長、  
村上、春山、浅井

傍聴：1名

<議事要旨>

1. 開会挨拶

（会長）

○これより第2回町田市総合戦略協議会を開催する。

（事務局）

○職務代理者は、事前にご了承いただき、高橋委員に務めていただくこととなった。

2. 初参加の委員紹介

（略）

（事務局）

○町田市審議会等の会議の公開に関する条例により町田市総合戦略協議会は原則公開とし、傍聴者から提出された意見取り扱いについては個別の回答は行わないとする。本日事前に1名の傍聴申し込みがあった。

（会長）

○前回の副市長からの挨拶でもあったが、本協議会は関係団体の委員の意見を広くうかがうものである。忌憚ないご意見をお願いします。

3. 報告事項

(1)人口ビジョン（素案）について

（事務局）

資料1の概要および53ページの町田市が目指すべき将来の方向について説明。

(2)総合戦略の構成について

（事務局）

資料2の1ページから12ページを説明。

（事務局）

○委員の方々には、4つの基本目標に対する施策の具体的な方向性について意見を願います。

#### 4. 協議事項

(会長)

○昨年度、国により「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が公表され、今年度は各自治体にて地方版総合戦略を策定することとなっている。一方で、町田市では人口推計や施策について、未来づくりプラン、グランドデザインの策定を通して、国の方針に先行して以前より着手していたところである。本協議会を通じて、改めて考え方や整合性について確認したい。9月にパブリックコメントを予定しており、8月末までに市として総合戦略の素案をまとめる予定である。今回の協議会では施策の基本的な方向性を確認することとし、具体的な施策内容の確認は次回としたい。

<意見交換>

##### (1) 人口ビジョン（素案）について

(会長)

○まず人口ビジョンについて。前回に引き続き、2030年までに町田市のどの地域においても出生率が全国水準の1.43まで改善し、現状において人口流入が多い地域では純移動率が維持される状態を想定し、目標とする将来人口を設定した旨の説明をした。日本全体に比べれば、町田市の人口減少は比較的ゆるやかである。最終的には資料1の61ページのとおりを目標とするということによいか、再確認したい。このフレームワークおよび目標に問題はないか。

(全体)

特に異論なし

##### (2) 総合戦略の構成について

(会長)

○国が掲げている4つの基本目標に対して、町田市は2つの独自の戦略的視点をもって対応することとしている。資料2の6ページでは、町田市の未来づくりプランやグランドデザインに挙げられている取り組みを4つの基本目標に対応させ、それぞれにあてはまることが確認できる。本日は基本的な方向性について、本資料で掲げているものでよいか確認したい。KPI等の細かい部分については、具体の施策案の検討とあわせて次回の協議会で確認するが、意見があれば合わせて伺いたい。

○まずは、前回出席でない方々にご意見があれば伺いたい。

(委員)

○基本目標の「3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について。日野・八王子・町田で事業を行う企業では、育児休職・休業が1年で設定されている傾向が強く、

1歳以上において待機児童が増える傾向にある。待機児童の問題については、行政の対応をお願いしたい。

(会長)

○法的な整備の話であると考え。現状では KPI として入っていないが、自治体として解決のために対応できる方策を考えていく必要がある。

(委員)

- 全体の進め方について、検討期間が短すぎるところが懸念である。
- 基本の方向性はこれでよいと思うが、町田らしさがないのではないかと。独自性をなくさず、突飛すぎず、実現可能なものを検討していただきたい。相模原市の総合戦略と中身が変わらない、ということのないようにしたい。
- 商工会議所に所属しているが、地域別支部会、業種別部会、さらに委員会があり、それぞれに意見交換の場がある。先日、工業部会より基本目標の「1. 経済活動を盛んにする」について、新たな工場を建設しようにも土地がないとの意見があった。一方、相模原市では工場誘致への助成や税制優遇、建設機購入等の際の補助金など、工場を建てやすくするための支援がある。町田市にもそうした支援をお願いしたい。
- 基本目標の「2. 人々が交流するまちづくりを推進する」については、国際化の視点を盛り込みたい。箱根と新宿の間にある立地を活かして欲しい。町田市を宿場町以外の目的で利用してもらう方法があるのではないかと。某証券会社支店長によると、全 163 支店のうち、町田は来客数トップ 10 に入るとのこと。多くの人に来ることを活用できると良い。
- 基本目標の「3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」については、教育の質が重要ではないかと。子ども・子育て支援会議にも出席しているが、施設などのハードの整備だけでなく、質が肝要との議論がある。
- 基本目標の「4. 時代にあった地域を作り、安全な暮らしを守る」については、山崎団地をはじめ各種団地の再生が重要ではないかと。高齢化が進み、空き家が増える中で、交通の便を整えながら、再開発を進めることができるのではないかと。
- 市の方針は商工会議所の計画策定にも大きく影響するため、今後担当課と商工会議所の議論の場を設けていただきたい。

(会長)

- 町田市には活用できる土地がないため、相模原市と工場誘致等の方針に違いが出る。町田市の個性は、豊富な自然、良好な住環境、学園都市という点ではないかと。現時点では、それらの町田市の特性が踏まえられた方向性で検討されていると考える。
- 新宿と箱根の間という町田市の立地については、ご指摘のとおり積極的に活用したいところであり、具体的な方策についてご意見をいただきたい。駅周辺の商店街のように、かつて栄えていても廃れている面もある。自治体にできることと、地元が熱意をもたなければできないことがある。商工会議所にもぜひ頑張ってもらいたい。

○教育の質について、何をもって質が高いとするか。現状、東京郊外の中で町田はある程度は高い水準ではないかと考えるが、更に高い質とは何か。

(委員)

○国際化、英語教育をイメージしている。インターナショナルスクールなどの受け皿があることも、「教育の質の高さ」の面で訴求するのではないか。

(会長)

○大学との連携の中で、具体的に国際化を進めていく話もあるだろう。大学の国際化は、少子化時代である今が正念場である。子供の教育の質の向上と町田の国際化をマッチさせていくと、相乗効果があるのではないか。

(委員)

○総合戦略の検討の方向性について確認したい。町田市は生産年齢人口が多い。地方の過疎部に比べ、民間での活力強く、民間で解決できる点も多い。その代わり、小さいまちに比べて市役所との関係性が見えにくい。資料2の3ページにPDCAやKPIなどが示されているが、自治体が行う部分を明確にしなければ、目標値があやふやにならないか。経営的な視点に立った公共サービスの提供は、特にそうした視点が重要である。市役所と民間の役割を明確にしたい。

(会長)

○NPOは基本目標の全体に関係するイメージか。

(委員)

○NPOは様々な活動をしているので、4つの柱すべてにかかってくる。

(会長)

○グランドデザインでもSMART PUBLICとして、NPO等の市民による公共サービス機能補完を提案しており、要の一つである。

(委員)

○町田市はNPOの活動が盛んで、約140団体が活動している。NPO法人にならずに活動を行っている団体の数も多い。

(会長)

○NPO法人にどう関わってもらうかは、考えていく必要がある。

○国際化という話については、桜美林大学が取り組んでいるのではないか。

(委員)

○国際交流としては、桜美林大学では年間約400~500人程度の留学生を受け入れている。日本文化を知ることがテーマとしており、お祭りなど地域の活動に協力させてもらっている。また、在留資格が留学でない人（働きながら勉強している人）に向けた午後の教室を開いている。国際交流センターなどでは留学生がボランティアとして活動するなど、草の根的な活動も行っている。

(会長)

○そうした活動の先に、町田市在住の外国人が増加する可能性はあるか。活動に加え、定着化への動きはないのか。

(委員)

○400人の留学生のうち、3分の2が短期留学(交換留学、約1年)である。残りの100人ほどが1年以上滞在している。日本全国の傾向と同じで中国からの留学生が多く、桜美林大学の場合でも留学生全体の8割に上る。欧米からの留学生は1割ほどである。

(委員)

○玉川大学では、海外への語学研修(2~3か月)は従来より取り組んできたが、3学科が1年間の留学を位置づけるようになった。これを交換留学にしようとする、3学科で300人の留学生を受け入れていく必要が出てくる。その際、300人分の宿泊施設の確保が問題になる。海外の留学生の受入れには、教育以外に生活支援が重要で非常に労がかかり、大学だけで担うのは限界がある。地域で国際交流を考えていく必要がある。現在はまだ受け入れは行っていないが、今後考える必要がある。

(会長)

○公団などにある、空き家などをうまく使うと良いのではないか。

(委員)

○歴史的な背景をふまえてほしい。「第2の渋谷」をコンセプトにまちづくりを行おうとしていたが、東急や大丸が最終的に撤退するなど、町田市には魅力がないということになるのではないか。首都圏基本計画等で、相模原市・町田市が業務核都市として位置付けられたなど、2市で一体的に都市を形成しようとしていた過去の取り組みの結果を考慮してほしい。本協議会については、検討期間が短すぎるところが懸念である。

(会長)

○町田市・相模原市の合併は無くなった話である。現在相模原市は政令指定都市になり、今から合併を模索するとなると強力な何かが必要であり、現実的には難しい。町田市における総合戦略に関するこれまでの検討においても、過去の経緯はある程度踏まえているが、むしろ重要なのは、これからどうするかを考えていくべきではないか。

(委員)

○団地再生について、団地に起業家を誘致するようなことはあるか。

(会長)

○ありえるだろう。ただ、町田市内の団地は都営・市営のみではないため、UR都市機構などの所有者に働きかけを行う必要がある。

(委員)

○たとえばモノレールが山崎団地の近くを通ることを考えると、団地の1階を起業家誘致に使うなどの方法が考えられる。起業家支援として、安く貸すことで、UR都市機構としても稼働率が上がるというメリットがあるのではないか。

(会長)

○空き家などはインキュベーション施設として最適である。留学生の宿泊施設として利用もできるだろう。基本目標のひとつ「4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」という点で、様々な人が入ってくる仕組みを考えていくべき。

(委員)

○留学生を入居させる、という方法もある。こうした取り組みにより「人が向かってくる街」になるのではないか。若い人が入居すれば、高齢者との交流も生まれる可能性がある。

(委員)

○基本目標や方向性、具体的な施策例が書かれているが、実際に総合戦略として公表されるのはどこまでか。具体的な施策まで公表する場合、現状のままでは少なすぎるように感じる。

(事務局)

○資料の記載はあくまで例であり、次回以降施策の内容を詰めていく。全体のバランスや実効性などを総合的に考えながら、最終的に記載するもの、しないものは出てくると思うが、記載しないから実施しないというわけではない。

(委員)

○総合戦略として公表された施策は、重点施策となると考えている。現在記載のないものでも、必要と考える施策の議論をするということでもいいか。

(会長)

○そうしたご意見をぜひいただければと考える。また、**KPI** の記載は国の方針でもあり、しっかりと記載することとなっている。基本的な方向性だけではイメージしにくいですが、**KPI** があるとイメージしやすい。ただ、具体的な目標値が出るため実現可能性を高めていく必要がある。その部分についても持ち帰っていただき、各委員から具体的にご意見をいただきたい。

(事務局)

○並行して庁内でも議論し、それらをふまえて検討した案を次回の協議会で提示したい。

(委員)

○基本的な方向性については納得感があるが、どのように実施していくのかわかりにくい。

(会長)

○資料 2 の 7 ページの右側に書かれている、施策を実施するにあたっての戦略的視点例が具体的な指標で、左側に書かれている具体的な施策例が、取り組みの内容になっている。

(委員)

○昔の町田市は、障害福祉に力をいれていた。今後高齢者が増加する中で、高齢者が徹底的に暮らしやすいという打ち出し方はないか。健康な人は資産もあるため、そうした高齢者を集める方法もあるのでは。

(会長)

○高齢者もさまざまであり、金銭的余裕のある方もいれば、金銭的に余裕がなく、介護の必要な人もいる。ひとつの因子として重要ではあるが、どれかに特定するというのではないのではないか。大阪の場合、金銭的に余裕のない人が集まってしまっている。あえて高齢者だけに重点を置くことはないと考える。今後、高齢者は絶対的に増えるので、若者がイキイキとする、という方針の方がキャッチコピーにはなるのではないか。

(委員)

○東日本大震災以来、復興事業として若者が東北に行っている。それを皮切りに、全国の限界集落などにも、多くの若者が出向き、町おこしを行っている。成功の秘訣は政策ではなく、市民がどのように復興に取り組むかにあると考える。市としての施策は必要だが、いかに一般住民に立ち上がってもらえるか、という視点からの施策が必要ではないか。

(会長)

○個人的な感覚として、町田市の住民は町田市に愛着を持っていると感じる。その原因がわかれば、ヒントになるかもしれない。相模原市にも長年関わっているが、相模原市と比べても、圧倒的に愛着が強いと感じる。

(委員)

○確かに、三多摩の中でも住民の町田市への愛着は強い。横浜市に次いで強いと感じる。生まれてからずっと住んでいる人でなくても、転入者でも愛着心が強くなる傾向がある。

(会長)

○愛着が強いことについても町田らしさがでる点ではないか。

(委員)

○桜美林大学で地域社会連携を担当しており、NPO など地域の団体から相談を受けるが、この 4 つの基本目標に関連した相談がとても多い。例えば、山崎団地では高齢化が進んでいるが、調べてみると若い世代も一定数入居している。しかし、そうした若い世代は地域で目立っていない。学内の落語研究会の学生が、独居世帯の孤独死増加への対策として、月に一度、団地で落語を開催し、参加高齢者の健康状態などをチェックしている。これは 2 年前くらいからの取組であるが、所有者である UR 都市機構も団地再生への活動として受け入れ、自らも同時にイベントを開催して若い世代の交流を図っている。町内会や学生も連携し、こうした小さな仕掛けが動き始めている。高齢化が進む中で、社会福祉法人の方からは、エンディング、つまり余生をどう送るかがポイントであるとの話も出ている。若者と多世代交流をしていく、高齢者であっても働くなど、多様な価値観に合った生き方ができるよう、町田に資源が増えるほど、高齢者も楽しく生活できるのではないか。また、各地区にある子どもセンター（ばあん、ただ ON など）と地域子育て相談センターなど行政の中で連携ができれば、支援の網の目が細くなる。そういった部分と高齢者をつないでいけば、課題も魅力に変わると感じている。様々な横のつながりを強くしていくべきではないか。

(会長)

○おっしゃるとおりである。

○総合戦略の基本的な方向性については、これで良いか。

(全体)

異議なし

(会長)

○次回は、本日の意見を踏まえ、総合戦略の素案を提示する。グランドデザインの中で、キャッチコピーとして「きらめく町田」を掲げているので、これを考慮して素案を考える。

(事務局)

○8月14日を目途に、各委員よりご意見を頂戴したい。企画政策課より連絡させていただく。

## 5. その他

(事務局)

○次回の協議会は、8月31日(月)の13:30から会議室2-2で開催する。

以上